

県士会 ニュース

No.
224
[2023.12]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents

TOPIC

2 第19回神奈川県作業療法学会開催報告

- 1 巻頭言
- 3 生活行為向上マネジメント (MTDLP)
推進委員会からのお知らせ
- 3 保険情報コーナー (第2回目)

- 4 カナドラ! 《県士会ニュース出張版》
- 4 絵本でみる作業療法
- 5 各部からの報告
- 6 理事会議事録
- 6 求人案内
- 8 会長の部屋
- 8 事務局からのお願い
- 8 編集後記

巻頭言 |

第6回神奈川県臨床作業療法大会 テーマは「Communication」です!



第6回神奈川県
臨床作業療法大会
大会長 木村 達

「Can I do it? (自分はできるかな)」 「How can I do it? (どうやったらできるかな)」 みなさんは、新しい事を任されたとき、どちらの言葉が胸に浮かびますか? Can (できるかどうか) と考えるより、How (どうやったらできるか) と考える方が、その実現をワクワクしながら前向きに取り組めるようです。この「本気で物事に取り組みワクワクドキドキする心」をプレイフル (Playful) と言うそうです。

2023年12月に第6回臨床作業療法大会を開催致します。テーマは「Communication ~再動 × 再考~」です。コロナ禍では密を避け、対面を避け、人の接触を避け、当たり前の生活が一変し、それらはコミュニケーションにも影響を及ぼしました。しかし、今やっと停滞していた「人」「社会」が再び動きだし、今までと同じように人との関わり、繋がりが持てるようになってきたと感じています。そういった今だからこそ、人や社会を繋ぐコミュニケーションについて考えたいと思い、「Communication」をテーマとしました。このコミュニケーションによって参加された方が「人・情報・社会」と「つながる」きっかけとなり、さらに広がり、そのつながりが継続ある関りになればと考えています。

今大会を通し、誰かと話すことで新しい気付きや発見があるかもしれません。その気付きや発見が様々なアイデアやイノベーション、そして新しい価値への創造に繋がるかもしれません。そんな「人・情報・社会」の化学反応が起きている、ワクワクドキドキできる場になればなと思っています。

最後に、プレイフルは「楽しいことの中に学びがある」という考えのようです。この大会も「楽しさ」を大事に開催できればと思っています。どうぞ、第6回臨床作業療法大会をよろしくお願いたします。

第19回神奈川県作業療法学会開催報告

第19回神奈川県作業療法学会 広報委員長 神保 匡良

2023年10月15日の日曜日、茅ヶ崎市民文化会館にて第19回神奈川県作業療法学会が開催されました。当日朝は、雨風が強く、道すがら衣服が濡れてしまう程に天気は荒れ模様でした。あいにくの天気にも関わらず多くの参加者から来場いただき、神奈川県作業療法士会員、県外の作業療法士、そして県民公開講座のために来場された一般の方を含めて合計400名以上の方々に参加していただきました。

大会プログラムは「OTにおけるダイバーシティとインクルージョン」という大会テーマに沿った学会長講演から始まりました。海外から見た日本、日本人の特性という視点から話は展開され、多様性が問われる現代社会において、日本の作業療法士はどのように社会に必要とされる存在になっていくべきなのかという未来のパラダイムの提言がなされました。

県民公開講座では、菅原健一先生からは『ぐるんとびー』の取り組みに関するお話だけでなく、人口減少していく日本社会の中で求められることは何か、日本とデンマークの医療福祉の考え方の違いから「正しさ」と何なのか、といった様々な視点から、これからの社会の中で必要とされるリハビリテーションに関する問題定義がなされました。

また、おかげさまで今大会は約60の演題発表の募

集があり、そのうち優良演題が5演題、5年目以下の若手発表者を対象とした20演題が現地会場で発表されました。若手を中心に設けられた演題発表は、今後の作業療法業界を担う若手の作業療法士への期待というメッセージが込められていました。

午後の特別講演は、学校作業療法の仲間知穂先生と、仙台青葉学院短期大学の齋藤佑樹先生という、作業療法業界を牽引している二人が登壇されるということもあり、午前中よりもさらに多くの来場者が会場に足を運んでくださっていました。学校作業療法と、病院における臨床実践と場面は違えど、「作業」という一つの共通概念に基づいた作業療法の本質が語られた講演であったと感じました。来場者の方々も、深く頷きながら話に聞き入って言った様子でした。

今大会はコロナによる自粛明けに開催された、久しぶりの対面形式の学会開催でした。対面形式の学会開催の最大の特徴は、人と人が直接顔を突き合わせ、コミュニケーションを取り、新たな人間関係を築いていくことにあると思います。今学会は「ダイバーシティ&インクルージョン」をテーマとして開催されましたが、多様な大会プログラムを通して明日からの臨床、これからの作業療法について語り合う仲間と繋がりがあえた、そんな学会となったのではないかと思います。



学会長講演の様子



パネルディスカッションに登壇された
仲間知穂先生(左)と齋藤佑樹先生(右)



演題発表会場の様子



会場の様子



受賞式の様子

連載

生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進委員会からのお知らせ ～ MTDLPいち推し～

早くも年末です。今年度担当となり、何もできないまま今年が終わってしまいます。

この原稿を書いているのは10月です。前号では、MTDLP 基礎研修、事例検討会に関して、10月号県士会ニュースをお読みいただいている頃には県士会ウェブサイトに掲載されている旨書きましたが、県士会サイトへまだ掲載されていません。不慣れとはいえ、約束を守れず深くお詫び申し上げます。

今年度のMTDLP 関連の研修会は以下となります。詳細は県士会ウェブサイトをご確認ください。

ぜひ、多くの皆さんにご参加いただきたいと思います。

ます。本委員会の理事や部員たちも参加します。まだだったという方、気になっていたんだ、せっかくなのでどんなものか聴いてみようという方等々、百聞は一見にしかずといえます。今さらいいおとや言わず、一緒に学習してみましょう。

●MTDLP 基礎研修：12月10日(日)、3月10日(日)

※両日とも丸一日要します。

●MTDLP 事例検討：1月21日(日)

※日程が合わない場合ご連絡ください。他の予定に調整が可能な場合もあります。

(文責：生活行為向上マネジメント推進委員会 奥原 孝幸)

保険情報コーナー 第2回目

〈厚労省〉「診療報酬改定施行期後ろ倒し(令和6年4月→6月)」に向け、現在調整中

制度対策部 澤口 勇

県士会会員の皆さん、こんにちは。制度対策部です。

前号より始めました「新コーナー」です。本コーナーでは「作業療法士が関わる諸制度(法律)」も含め、皆様のお役に立つよう、情報提供に努めております。

来年、令和6年度は「トリプル改定(診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の3つが同時に改定)」です。本原稿を書いている令和5年10月はずでに中医協(中央社会保険医療協議会)で中間とりまとめが8月末に出され、以降、各部・小委員会で様々な議論が継続されていますが、ところで皆さん、診療報酬改定の施行日というと例年4月1日と思いませんか？ 今日のお話は、それが令和6年度の診療報酬改定から『4月1日ではなく、6月1日に変更』の方向で現在、議論が進んでいることを情報提供致します。キーワードは『DX(デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変える(Transformする))』です。

以下、『令和6年度診療報酬改定に向けた議論の概要(中医協 R5.8.30)』の資料から一部を抜粋し、ご紹介します。

〈診療報酬改定DXに対応するための施行の後ろ倒しについて：現状と課題〉

●これまで診療報酬改定に伴い、答申や告示(例年、3月から施行、初回請求までの期間が短く(例年、4月1日付で新しい改定内容で施行開始)、初回請求(5月10日)までの期間が短く、医療機関・薬局等及びベンダ(製薬会社などを指します)の業務がひっ迫し、大きな負担がかかっている。

〈医療DXも含めた論点〉

●全国医療情報プラットフォームの構築や電子カルテ情報

の標準化において、情報の共有にあたっての標準規格化された3文書(診療情報提供書および退院サマリー、健診結果報告書)、およびそれに含まれる6情報(傷病名、アレルギー情報、感染症情報、薬物材禁忌情報、検査情報・救急時に有用な検査、生活習慣病関連の検査、処方情報)を普及促進し、医療の質向上のために活用していくことについてどのように考えるか。診療報酬改定DXの推進に向けて、医療機関・薬局等やベンダの集中的な業務負担を平準化するために、令和6年度診療報酬改定より施行時期を6月1日施行とすることとしてはどうか。また薬価改定の施行に関しては例年通り4月1日に改定とすることとしてはどうか。改定時期の後ろ倒しは、財政影響や改定結果の検証期間はもちろん、薬価改定や、それらに関する調査の時期や期間等にも影響する。4月改定を前提としていたサイクルが変わることなどで、現場が混乱しないよう丁寧な説明や配慮が必要。

各位、病院など医療機関にお勤めの方が多くかと思えます。管理者の方は特に、勤務先の医療課の方などから情報収集をして下さい。例えば職場の事業計画の立案等などで、決算時期と改定時期の締めを合わせている職場は多いかと存じますが、来年度から4月改定を前提としていたサイクルがずれる予定です。現場が一旦、混乱するかもしれないが、それでも厚労省が踏み込もうとする背景は、医療DXの推進が必要と判断されたからです。高齢化社会の到来を見据え、別の事業では医療、介護のデータだけでなく、健診データなども含め、地域や個人の健康課題にも取り組もうとしています。診療報酬改定DXはそのための平準化の作業でもあるのです。

カナドラ！《県士会ニュース出張版》

～ 実車評価について ～



◀ 神奈川県の自動車運転に関するアンケートはこちら



◀ プログラムカナドラはこちら

制度対策部自動車運転班のブログ「カナドラ！」(上記 QR コードよりブログチェックもお願いします!)の県士会ニュース出張版第 12 回です。今回は、患者様の支援を進める上で皆様も考える「実車評価」に関してお伝えしたいと思います。

実車評価の実施に関しては都道府県によって大きく状況が異なり、神奈川県では県内での大きな動きはなく、各病院からの個別相談での教習所との連携に留まっている現状があります。各病院からの連携に関してアンケート等で得られている情報では、協力して下さる教習所があれば教習所内・路上ともにペーパードライバー講習としての実施か独自の枠組みで実施されていることが多いようです。しかし条件付けとして「臨時適性検査通過後(つまり、安全運転相談の後に再開許可が出ている場合)」とされている場合もあるので、入院中の能力評価としての実施はできないことが多いです。

能力評価として実施できないと実車評価の意味合いは少なくなるように感じるかもしれませんが、改造の必要性が出た場合は実際の操作習熟の練習にもなりますし、ご家族が納得しきれていない場合に実際に見ていただくことで前向きに捉えていただけるようなケー

制度対策部自動車運転班 渡邊 隼人

スの報告もあります。

もし安全運転相談後に再開可能となり、その上で実車評価をと考えた場合は

- ①二俣川免許センターのコース開放を利用
- ②近隣の教習所へ連絡し、ペーパードライバー講習等での利用を相談

であれば実施できる可能性が高いです。

①のコース開放は予約が必要で土日祝の指定日のみではあるものの、ご自宅の普通車を持ち込んで練習ができ指導者同伴(免許保有 3 年以上の者)であれば安価に利用できます。

※車種等の条件により費用が変わりますので、神奈川県警のホームページにてご確認ください。

実車評価は病院内の環境では実施できず、教習所との連携にも難しさもあると思います。県士会自動車運転班でも神奈川県警への働きかけに加えて教習所協会への関わりも準備を進めていますが、具体的な活動はできておりませんので今後また進捗をお伝えできるよう検討をしていきます。

自動車運転に関わるご相談や共有事項があれば県士会自動車運転班宛にお気軽にご連絡ください!

第 6 回

絵本でみる作業療法

絵本でみる作業療法の作製は学会発表と似ている!

「絵本でみる作業療法」の作製手順は、①タイトル、②シナリオ、③挿絵である。まるで、学会発表の手順(①研究テーマ、②研究計画書・介入、③スライド)である。学会の参加者を考慮し、相手に伝わりやすい言葉や図、写真、イラストなどを選択する。「絵本でみる作業療法」のメインターゲットは中高生であり、中高生でもわかりやすい言葉やイラストを選択するように心がけている。

イラストに関しては、見慣れてもわかりやすい「いらすとや」のイラストを参考にしている。シナリオに合わせて「いらすとや」でキーワードを検索し、その検索結果をもとに挿絵を作成している。学会発表は経験を積めば積むほど上手くなるという。「絵本でみる作業療法」は作れば作るほど上手くなるのか? いくつか「いらすとや」に頼らず絵本を作製してみたい。

(文責: 清水 拓人)

県士会サイトも是非みてね!
<https://kana-ot.jp/wpm/p-book/>



各部からの報告

▶ 学術部 学術部研究助成版からのお知らせ

(文責：佐々木 洋子)

2023 年度の研究助成事業の支給者決定

本年度の申請者は、研究Ⅰ（研究組織 2 法人以上の一般会員）が 2 名、研究Ⅱ（研究代表者は免許取得 7 年目以下で、研究組織は 1 法人以上）が 1 名の計 3 名でした。書類審査および合議審査の結果、下記の 2 名に対し助成金を支給することになりました。

学術部では全県士会会員に対し、積極的に研究を支援する体制を作っていきたいと思っております。来年度も研究にチャレンジしてみたい方、若手の方などの多くの応募をお待ちしております。

研究組織	氏名	所属	研究内容	助成金額
研究Ⅰ	駒場 一貴	昭和大学藤が丘病院	本邦の集中治療センターにおける作業療法教育に関する実態調査	129,980 円
研究Ⅰ	甲本 夏穂	国際医療福祉大学	出産・育児を経験した作業療法士が抱く「作業療法士観」構築の相互関係	127,860 円
研究Ⅱ	渡邊 大貴	昭和大学藤が丘病院	シリコンインプラントを用いた乳がん再建手術後の新規作業療法プロトコルの開発	118,000 円

論文掲載のお知らせ

2019 年度の研究助成事業対象者である松岡太一先生（福井記念病院）の「認知機能障害を呈した地域在住統合失調症者に対する作業機能障害に焦点を当てた評価および介入」が作業療法（42 巻 2 号、206-212、2023）に、加藤美帆子先生（川崎市中央療育セ

ンター）の「重症心身障害児の視線入力装置による意思表出の評価とその効果について」が神奈川作業療法研究（13 巻 1 号、1-8、2023）に、それぞれ論文掲載されています。ぜひご覧ください。

スキルアップ研修会をオンラインにて開催しました！

(文責：林 慎也)

9 月 19 日に学術部主催で茅ヶ崎新北陵病院の藤本一博先生より「作業療法の目標設定と臨床推論」と題してオンライン研修会を行いました。平日の 18:30-20:00 の時間帯の開催にもかかわらず、北海道、栃木、滋賀、大阪などから 70 名を超える参加者数でした。

目標設定は、誰でもできる簡単なものではなく、一つの専門分野と表現されており、対象者の状況、丁寧なコミュニケーション、細かなモニタリングの必要性を学びました。臨床推論は、科学的、物語的、交互交流的、実際の、倫理的の 5 つの臨床推論について、事例を交えて具体的に説明していただきました。

先生は最後に、検査測定、機能アプローチ、症例検討といった古い価値観が OT に存在し、面接・作業観察、作業への協業、事例検討が新しい OT の価値観であると話されており、OT の在り方としてどちらの価値観を選択するか考えさせられました。多忙の中、講師を引き受けてくださった藤本先生に感謝いたします。



各部からの報告

▶ウェブサイト管理委員会 県士会サイト 研修会情報・求人情報案内

(文責：ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

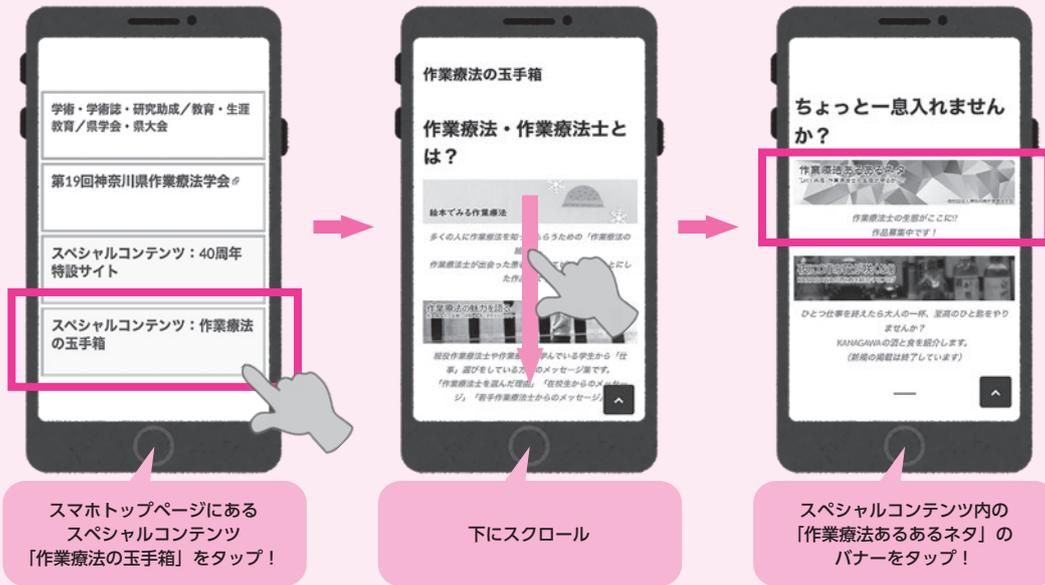
県士会サイトでは様々なコンテンツが存在していますが、そんな中でも「スペシャルコンテンツ」は様々な内容が盛り沢山です。今回はその内1つの【作業療法あるあるネタ】を紹介します。

本コンテンツは、“Let’s 共感” 作業療法士の生態がここに！？をテーマに、日常生活で作業療法士が働く中で多くの人を経験したであろう身の回りのあるあるネタ・共感ネタが掲載されています。うんうんとなる

「あるある」、クスっとする「あるある」、驚きと発見の「あるある」など様々です。閲覧はもちろん投稿もできる参加型コンテンツとなっています。領域やカテゴリー別に「あるある」を探すことも出来ます。また、共感性の高い「あるある」は殿堂入りされることも！！

是非【作業療法あるあるネタ】コンテンツを開いて頂き、作業療法「あるある」を共感・共有しましょう！皆様からの投稿もお待ちしております。

図)【作業療法あるあるネタ】閲覧方法 (スマホ Ver.)



求人案内 作業療法士募集

医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院

施設概要：鎌倉市内の3次救急の急性期病院です。高齢化率の高いこの地域で、患者さんが元の暮らしに戻れるように、総合病院ならではの様々なリハビリを展開しています。
 ※脳血管、内部障害（心臓・呼吸）、がん、外傷整形（ハンドセラピー）、外科

募集人数：常勤 1名

待遇：給与/当院規定による

※経験、認定資格有する場合加算あり
 昇給年1回、賞与年2回
 交通費全額支給・住宅手当補助有

勤務時間：8:30～17:00

個別により勤務調整可

(8:00～16:30・9:00～17:30等)

休日：4週8休

福利厚生：医療費還付制度・人間ドック無料
 グループ共済・職員食堂等

応募方法：当院HPよりお申込みください
 URL <https://www.skgh.jp>

〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370番1

問合せ先：人事課 わたなべ 渡部

Email: skghhroffice@gmail.com

TEL: 0467-46-1717 (代)

▶地域リハビリテーション部

OT協会主催 2023年度 第2回 地域事業支援会議報告

(文責：さがみりハビリテーション病院 佐藤 隼)

2023年10月7日・8日の2日間、日本作業療法士協会地域社会振興部主催の『地域事業支援会議』がハイブリッド開催で行われました。この会議は、全国1718の市町村で作業療法士が地域支援事業に参画するための体制づくりを目的に、日本作業療法士協会地域社会振興部地域包括ケア推進班が今年度より形を変えて実施した2回目の会議になります。全国の都道府県士会から総勢183名の選任者が参加し、神奈川県作業療法士会からは7名(現地1名・オンライン6名)出席しました。

今回の会議は、山本伸一協会長による「作業療法(士)の強みを各市町村に発信する取り組みを積極的に進めて欲しい」というエールから始まり、地域社会振興部理事らから地域共生社会の構築に向けて作業療法士がどのような関わりができるか、関連する各種事業について発信がされました。今後予想される社会保障費の増大や介護人材不足の少子高齢化社会においては、高齢者が自立支援・介護予防によって元気に過ごせる地域づくりが重要となり、厚生労働省はそのコーディネーター役として私たち医療専門職に対する期待をしています。その中で、私たちが参画できる事業には「短期集中予防サービス事業」「生活支援体制整備事業」「地域保健総合推進事業」「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業」など、初めて聞くような様々な展開方法があることを知りました。グループワークを通して各士会の参画状況を確認し合いましたが、すでに

着手している士会もあれば行政機関との入口に悩んでいる士会もありました。これらの事業に参画していくためには、各市町村担当者を設置して窓口を明確化することや市町村からの期待に応えることができる人材育成をしていく課題が挙げられました。神奈川県に関しては地域リハビリテーション部や地域包括ケア推進委員会を中心に市町村との関係性や人材育成が着実に進められていること、各地域における人材派遣体制の整備が課題であることを認識することができました。

地域包括ケアシステムの構築が提唱されて15年、Withコロナによっても生活スタイルや地域づくりの展開が多様化され、作業療法士への期待や『作業療法5カ年戦略』も変化してきました。地域住民の健康や幸福に寄与するために、私たち作業療法士一人ひとりが社会の動向や地域の実情について情報収集し、地域ニーズに即応できる信頼性を高めていくことの重要性を今回の会議で再認識しました。すべての人が元気に活躍できる「人生100年時代」の地域共生社会において、作業療法士による地域支援事業を通して日本の隅々にまで元気を届け、その人が持つ力を地域の力につなげる私たちの作業療法を「のこす」・「ひろげる」・「つくる」視点をもって着実かつ迅速に進めていきましょう。期待を受けている『今』が動くチャンスです。皆さんもキーワードを検索して、住んでいる地域・働いている地域の情報や動向をキャッチしてみてください。



私が編集長です！

ニュースの編集方針について

みなさま、本ニュース編集長の国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 出口弦舞です。2013年に広報部理事に就任し、その後2015年からニュース班長となりましたのでニュース製作に携わって早8年ほど経ったこととなります。

神奈川県作業療法士会の本ニュースは会員向けを主とした内容です。そこで会から会員の皆様に必ず、またぜひ知っていただきたいことを中心に編集しています。そこで理事会議事録、各部署の動向、学術集会の開催案内は必須で掲載しております。会員の皆様にはぜひご自分の所属される職能団体がどこに向かうのか確実に把握していただきたく、その上で会員の皆様おひとりおひとりが向かってほしい会の方向性を見出し、関わっていただけるようになるお手伝いができればと思っています。また会員の方の研鑽についても支援すべ

く学術集会、研修会などの記事を盛り込んでおります。

現在は SNS など情報発信の形は様々だと思いますが、皆様への周知の確実性を求めるため、現在は年に4回の紙面による送付、2回の県士会ホームページによるPDF公開を行っています。紙面送付の号であっても、県士会ホームページでのPDF閲覧は可能です。電車の通勤途上でもスマホで読んでいただけるようにしています。

編集にあたっては「6割GO」の精神で製作していますので、挑戦もあれば失敗もあります。読者の方にはご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、常に会員の皆様の役に立つニュースでありたいというスタンスは守り、発行を続けられるようにこれからも努力して参りたいと思います。これからも宜しくお願いたします。



通称 ▶ びぐめい編集
趣味 ▶ 動くプラモデル作り、怪獣・特撮推しによるオタク活動
愛犬 ▶ こはく (カニンヘンダックスフント・オス2歳)

事務局からのお願い

- **届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います。(随時受付)
- **休会される方** 来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに ①『休会届』と ②『証明書』を郵送でご提出願います (**FAX不可**)。
- **退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います (**上記日必着**)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式**ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までにご提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集後記

2023年も年末を迎え忙しい時期となりました。今年はようやくコロナも落ち着き、学会・研修等が久しぶりに現地で開催されました。個人的には、現地で先生方の熱いお話を聞くと、たくさん刺激を頂けるので、やっぱり現地は素敵！と感じました。

一方で、今年はインフルエンザが例年の前倒しで流行の予測が出ております。どうやら年末にかけてピークになりそうとのことなので、ちょうど12月号が出ている頃かもしれません。皆様も体調管理に注意し、良いお年をお迎えください。(まつ)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (224号) 2023年12月発行(年4回発行)

発行責任者 神保 武則
編集責任者 金山 桂
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
山岡 洸(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(悠の木株式会社) / 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)
松井 洋鷹(刈野辺総合病院) / 碓屋 瑛理(佐藤病院) / 岩居 洋輝(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号
TEL/FAX : 045-663-5997
月火水木金 10:00~15:00
メールアドレス : jimur@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
<https://kana-ot.jp> ▶ 作業療法 神奈川 検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

